

令和 7 年度 看護実践研究委員会 活動報告

■委員名	委員長：片山 恵 副委員長：橋口周子 委員：立垣祐子・安原沙織・矢野啓子・大儀律子・福永博子・後藤たみ・橋本弘子
■開催回数	6 回
■活動目標	1. ニーズに応じた看護実践研究会の企画・開催・運営を行う。 2. 応募演題の質の担保が図れるようマニュアルを作成する。 3. 投稿者の負担を考慮し査読の質・量の標準化を行う。 4. 査読のプロセスを通して実践及び研究報告の支援を行う。 5. 実践及び研究報告のスライド作成の支援を行う。 6. 実践及び研究報告者、参加者が交流できる場を設定する。 7. 看護実践研究会の評価を行い次年度の活動を企画する。
■活動内容	令和 7 年度看護実践研究会の開催とそれに向けた企画委員会の開催 1. 看護実践研究会の概要 ・開催日：令和 7 年11月22日 ・対象者：県内の看護職者 ・参加人数：107名（会場81名 オンライン26名） ・開催テーマ：「ケアの効果が視える！わかる！－看護の質の評価－」 ・教育講演：テーマ「提供しているケアの質を評価する！ ケアのインディケーターを設定しよう」 講師 兵庫県立大学 准教授 小野博史 氏 2. 開催までの準備について 応募演題は、研究報告部門 7 題、実践報告部門14題であった。委員会の中で査読者を決め、2－3 回の査読を行い、修正等のやり取りを経て全応募演題が採択となった。 3. 看護実践研究会の開催について 11月22日に開催され、兵庫県看護協会長からの冒頭あいさつから始まり、口演発表と教育講演が行われた。現場での課題や問題意識から改善や実証を行い、現場を患者や働く看護師のために変えていこう、良くしていこうという意気込みが感じられる発表が多数あった。次年度も引き続き現場からの実践報告や研究発表の場の提供と発表への支援を委員会として行っていく。 企画通りの進行となり滞りなく行われた。 4. 実践及び研究報告の支援 1) 応募演題の質の担保が図れるようなマニュアルの作成 2) 査読の質と量の標準化を図る。 3) 査読を通じた実践及び研究報告の支援 4) 応募者の実践報告及び研究の支援
■活動の評価	・スライド作成のレベルが上がっており、発表はスムーズに行われていた。 ・質疑応答で質問が少なく、座長から質問を行う状況が多く発生していた。質問時間が

	短いためなのか他の要因があるのか今後検討が必要である。 ・ 1つの会場ですべての発表ができたので、参加者はじっくり発表を聞くことができたのではないかと考える。発表数が多くなり会場数を増やす必要がなければできるだけ一会で集約する方が良いと考える。
■今後の課題	・ 実践報告が増えていることは良いことだが、さらに発展的に実践報告が研究となるような支援についての案を出していく。 ・ 発表者のスライド作成レベルが確実に上がってきているが、支援が必要な応募者のためにスライド作成の支援についての具体的な策を考えていく。 ・ 今年の査読に関しては、委員全員で討議する案件はなく、スムーズに行われた。しかし、昨年同様に実践報告・看護研究の抄録の完成度は施設によって差があり、発表までにある一定の基準に達することができるよう、投稿者1人に対して複数回のやり取りを要する。抄録の質と投稿者の負担の折り合いについては引き続き検討が必要である。